2 ヒゼキヤ

聖徒伝 151

「主に応えて勝利を得よう」

列王記Ⅱ18～19章　　エルサレムの包囲

Shikaoichurch.com

アウトライン

0. イントロダクション

Ⅰ. ヒゼキヤの即位　18章1～12節

Ⅱ. 包囲されたエルサレム　18章13～37節

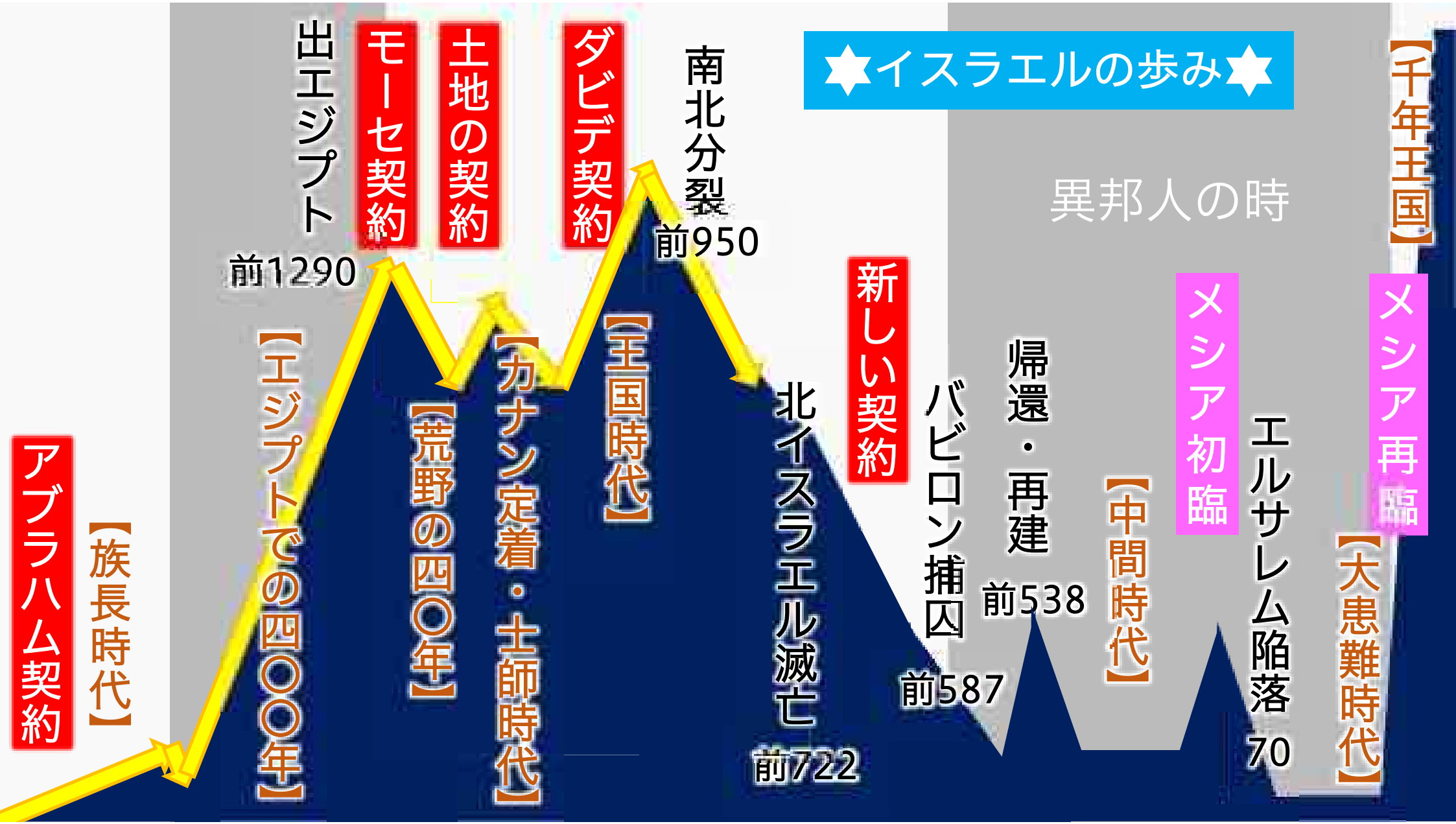
Ⅲ. 信仰による戦い　19章

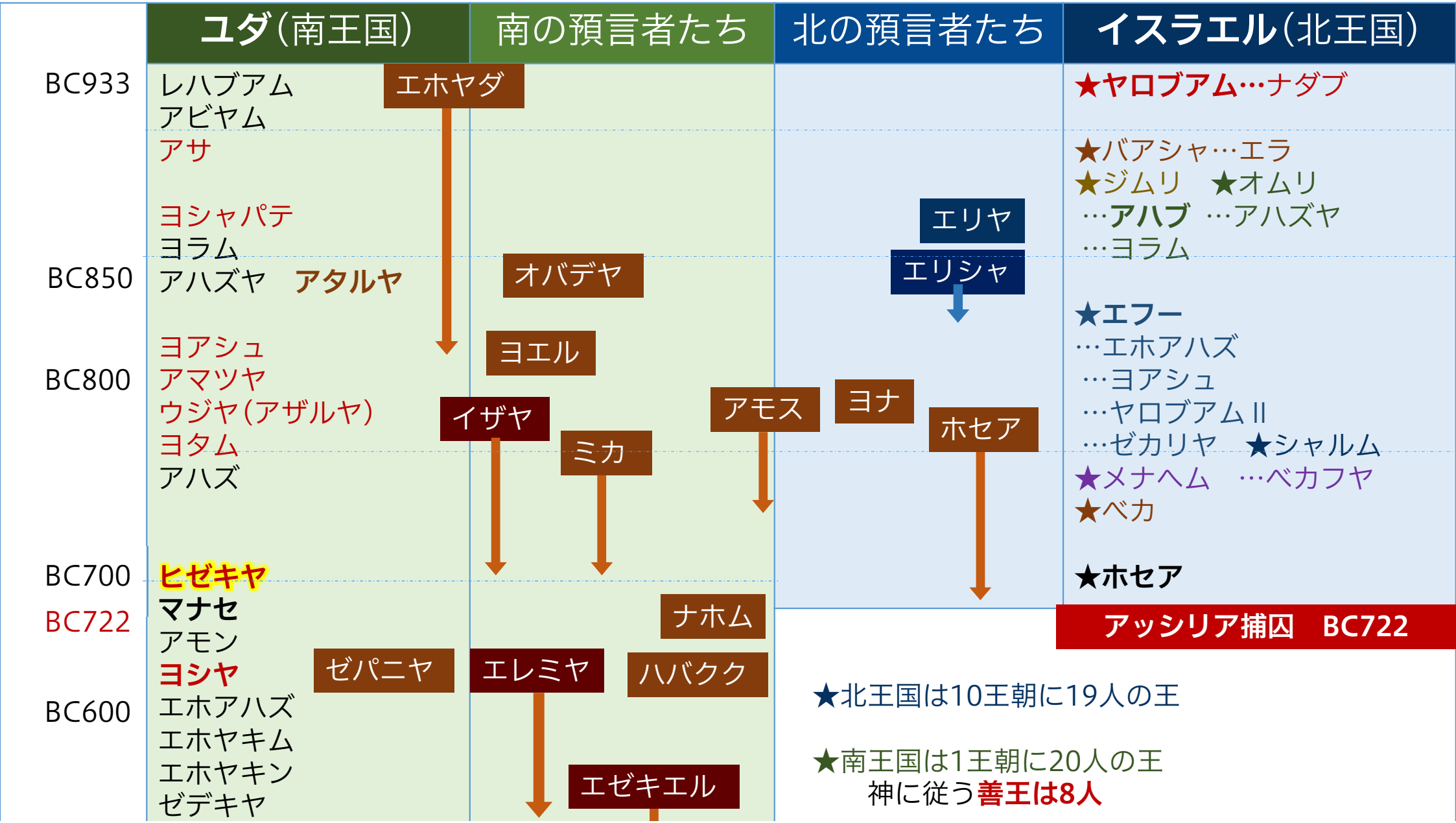
Ⅳ. まとめと適用

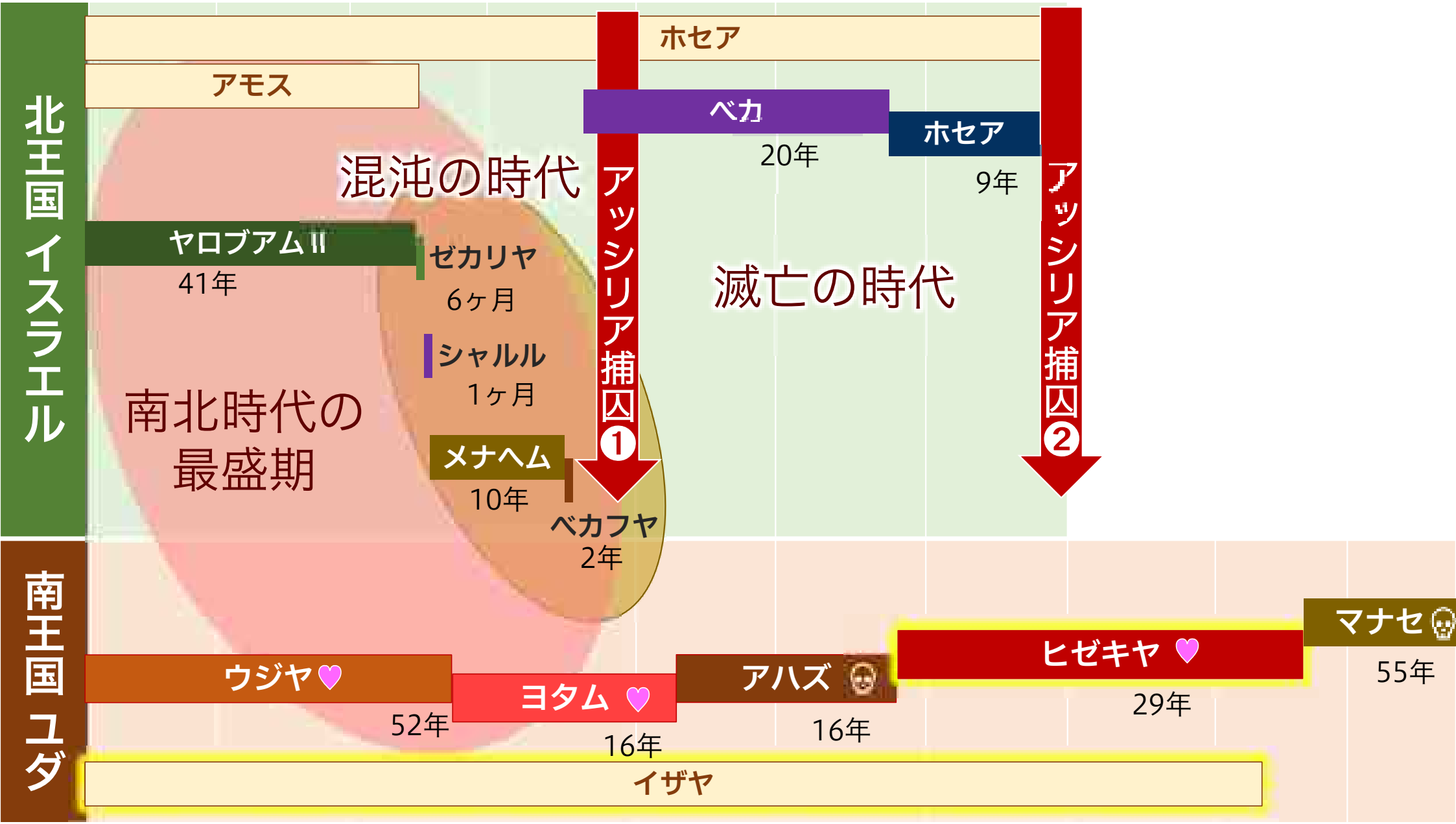
信仰の戦いをヒゼキヤに学ぼう

エルサレム旧市街の城壁

【無垢の時代】
天地創造
【良心の時代】
堕罪
~大洪水
【人類統治の時代】
バベルの塔事件
【約束の時代】
アブラハム
～ヤコブ
【律法の時代】
イスラエル
王国時代
メシア初臨
【恵みの時代】
聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨
【御国の時代】
千年王国
大審判
新天新地
①エデン契約
②アダム契約
③ノア契約
④アブラハム契約
⑤モーセ契約
⑥土地の契約
⑦ダビデ契約
⑧新しい契約
どの時代も
神の約束が礎にある
過　去
現　在
未　来


イスラエルの歩み
アブラハム契約
【族長時代】
【エジプトでの四〇〇年】
出エジプト
前1290
モーセ契約
土地の契約
【荒野の四〇年】
【カナン定着・士師時代】
ダビデ契約
【王国時代】
南北分裂
前950
北イスラエル滅亡
前722
新しい契約
バビロン捕囚
前587
帰還・再建
前538
【中間時代】
異邦人の時
メシア初臨
エルサレム陥落
70
【大患難時代】
メシア再臨
【千年王国】


ユダ(南王国)
南の預言者たち
北の預言者たち
イスラエル(北王国)
BC933
BC850
BC800
BC700
BC722
BC600
レハブアム
アビヤム
アサ
ヨシャパテ
ヨラム
アハズヤ
アタルヤ
ヨアシュ
アマツヤ
ウジヤ(アザルヤ)
ヨタム
アハズ
ヒゼキヤ
マナセ
アモン
ヨシヤ
エホアハズ
エホヤキム
エホヤキン
ゼデキヤ
エホヤダ
オバデヤ
ヨエル
イザヤ
ミカ
アモス
ヨナ
ホセア
ナホム
ゼパニヤ
エレミヤ
ハバクク
エゼキエル
エリヤ
エリシャ
★ヤロブアム…ナダブ
★バアシャ…エラ
★ジムリ　★オムリ
…アハブ　…アハズヤ
…ヨラム
★エフー
…エホアハズ
…ヨアシュ
…ヤロブアムⅡ
…ゼカリヤ　★シャルム
★メナヘム　…ベカフヤ
★ベカ
★ホセア
アッシリア捕囚　BC722
★北王国は10王朝に19人の王
★南王国は1王朝に20人の王
神に従う善王は8人


北王国 イスラエル
南王国 ユダ
ホセア
アモス
ベカ
20年
ホセア
9年
混沌の時代
アッシリア捕囚❶
アッシリア捕囚❷
ヤロブアムII
41年
ゼカリヤ
6ヶ月
滅亡の時代
シャルル
1ヶ月
南北時代の
最盛期
メナヘム
10年
ベカフヤ
2年
マナセ
55年
ヒゼキヤ
29年
ウジヤ
52年
ヨタム
16年
アハズ
16年
イザヤ

Ⅰ．ヒゼキヤの即位・アッシリア捕囚　列王記第二18章1～12節

【ヒゼキヤの即位】列王記Ⅱ18:1～3

イスラエルの王エラの子ホセアの第三年に、ユダの王アハズの子ヒゼキヤ*が王となった。

彼は二十五歳で王となり、エルサレムで二十九年間、王であった。彼の母の名はアビといい、ゼカリヤの娘であった。

彼は、すべて父祖ダビデが行ったとおりに、【主】の目にかなうことを行った。

＊“主は我が力”

■ヒゼキヤは主なる神に従う善王だった。

【青銅の蛇】列王記Ⅱ18:4～5

高き所を取り除き、石の柱を打ち砕き、アシェラ像を切り倒し、モーセが作った青銅の蛇*を砕いた。そのころまで、イスラエル人がこれに犠牲を供えていたからである。これはネフシュタン*と呼ばれていた。

彼はイスラエルの神、【主】に信頼していた。彼の後にも前にも、ユダの王たちの中で、彼ほどの者はだれもいなかった。

＊“青銅のもの”　…毒蛇で民が裁かれた時、
　青銅の蛇を仰ぎ見て救われるよう神がされた。

【ヒゼキヤの忠実】列王記Ⅱ18:6～8

彼は【主】に堅くつき従って離れることなく、【主】がモーセに命じられた命令*を守った。

【主】は彼とともにおられた。彼はどこへ出て行っても成功を収めた。彼はアッシリアの王に反逆し、彼に仕えなかった。

彼はペリシテ人を討ってガザ*にまで至り、見張りのやぐらから城壁のある町に至るその領土を打ち破った。

＊律法に従い、例祭を行い、礼拝をささげた。

＊仇敵ペリシテの都

【サマリア陥落】列王記Ⅱ18:9～10

ヒゼキヤ王の第四年、イスラエルの王エラの子ホセアの第七年に、アッシリアの王シャルマネセルがサマリアに攻め上って来て、これを包囲し、三年後にこれを攻め取った。すなわち、ヒゼキヤの第六年、イスラエルの王ホセアの第九年に、サマリアは攻め取られた。

■ヒゼキヤの即位から6年目、北王国がついに滅亡。

➡アッシリアが次に狙うのが、南王国・ユダ。

【アッシリア捕囚】列王記 II 18:11～12

アッシリアの王はイスラエル人をアッシリアに捕らえ移し、彼らをハラフと、ゴザンの川ハボルのほとり、またメディアの町々に定住させた。 これは、彼らが彼らの神、【主】の御声に聞き従わず、その契約を破り、【主】のしもべモーセが命じたすべてのことに聞き従わず、これを行わなかったからである。

Ⅱ．包囲されたエルサレム　列王記第二18章13～37節

【敗北と賠償】列王記Ⅱ18:13～14

ヒゼキヤ王の第十四年に、アッシリアの王センナケリブが、ユダのすべての城壁のある町々に攻め上り、これを取った。

ユダの王ヒゼキヤは、ラキシュのアッシリアの王のところに人を遣わして言った。「私は過ちを犯しました。私のところから引き揚げてください。あなたが私に課せられるものは何でも負いますから。」そこで、アッシリアの王はユダの王ヒゼキヤに、銀三百タラント*と金三十タラント*を要求した。

＊銀10ｔ　＊金1ｔ

【剥ぎ取られた金】列王記Ⅱ18:15～16

ヒゼキヤは、【主】の宮と王宮の宝物倉にある銀をすべて渡した。

そのとき、ユダの王ヒゼキヤは、自分が【主】の神殿の扉と柱に張り付けた金*を剥ぎ取り、これをアッシリアの王に渡した。

＊先代のアハズ時代に荒れ果てた神殿を
　ヒゼキヤが補修していた。

【アッシリアの特使たち】列王記Ⅱ18:17～18

アッシリアの王は、タルタン、ラブ・サリス、およびラブ・シャケを、大軍とともにラキシュからエルサレムのヒゼキヤ王のところへ送った。彼らはエルサレムに上って来た。彼らは上って来ると、布さらしの野への大路にある、上の池の水道のそばに立った。

彼らが王に呼びかけたので、ヒルキヤの子である宮廷長官エルヤキム、書記シェブナ、およびアサフの子である史官ヨアフは、彼らのところに出て行った。

■アッシリアとユダの高官同士が対面

【アッシリア王の伝言】列王記Ⅱ18:19～20

ラブ・シャケ*は彼らに言った。「ヒゼキヤに伝えよ。大王、アッシリアの王がこう言っておられる。『いったい、おまえは何に拠り頼んでいるのか。

口先だけのことばが、戦略であり戦力だというのか。今おまえは、だれに拠り頼んでいるのか。私に反逆しているが。」

■アッシリアの特使*が携えて来たのは、

ユダに完全降伏を迫るアッシリア王の勧告。

➡拒めば北王国と同じ目に遭うぞ、と!!

【主への嘲り】列王記Ⅱ18:21～22

今おまえは、あの傷んだ葦の杖、エジプトに拠り頼んでいるが、それは、それに寄りかかる者の手を刺し貫くだけだ。エジプトの王ファラオは、すべて彼に拠り頼む者にそうするのだ。

おまえたちは私に「われわれは、われわれの神、【主】に拠り頼む」と言う。その主とは、ヒゼキヤがその高き所と祭壇を取り除いて、ユダとエルサレムに「エルサレムにあるこの祭壇の前で拝め」と言った、そういう主ではないか*。

＊敗北を重ねるユダの神に力はないと!!

【挑発】列王記Ⅱ18:23～25

さあ今、私の主君、アッシリアの王と賭けをしないか。もし、おまえのほうで乗り手をそろえることができるのなら、おまえに二千頭の馬を与えよう。

おまえは戦車と騎兵のことでエジプトに拠り頼んでいるが、私の主君の最も小さい家来である総督一人さえ追い返せないのだ。

今、私がこの場所を滅ぼすために上って来たのは、【主】を差し置いてのことであろうか。【主】が私に「この国に攻め上って、これを滅ぼせ」と言われたのだ。』」

【ユダの高官たちの懇願】列王記Ⅱ18:26

ヒルキヤの子エルヤキムとシェブナとヨアフは、ラブ・シャケに言った。「どうか、しもべたちにはアラム語*で話してください。われわれはアラム語が分かりますから。城壁の上にいる民が聞いているところでは、われわれにユダのことばで話さないでください。」

＊当時の中東の共通語の一つだった。
聖書のごく一部はアラム語（エズラ記4:8～6:18、7:12～26、ダニエル書2:4～7:28他）

【脅迫と扇情】列王記Ⅱ18:27

ラブ・シャケは彼らに言った。「私の主君がこれらのことを告げに私を遣わされたのは、おまえの主君や、おまえのためだろうか。むしろ、城壁の上に座っている者たちのためではないか。彼らはおまえたちと一緒に、自分の糞を食らい、自分の尿を飲むようになるのだ。」
ラブ・シャケは突っ立って、ユダのことばで大声で叫んで、こう告げた。
「大王、アッシリアの王のことばを聞け。 王はこう言っておられる。『ヒゼキヤにごまかされるな。あれは、おまえたちを私の手から救い出すことができないからだ。」

【降伏勧告】列王記Ⅱ18:30～31

ヒゼキヤは、「【主】が必ずわれわれを救い出してくださる。この都は決してアッシリアの王の手に渡されることはない」と言って、おまえたちに【主】を信頼させようとするが、そうはさせない。』

ヒゼキヤの言うことを聞くな。アッシリアの王はこう言っておられるからだ。『私と和を結び、私に降伏せよ。そうすれば、おまえたちはみな、自分のぶどうと自分のいちじくを食べ、自分の井戸の水を飲めるようになる。」

【捕囚の末路】列王記Ⅱ18:32

「その後私は来て、おまえたちの国と同じような国におまえたちを連れて行く。そこは穀物と新しいぶどう酒の地、パンとぶどう畑の地、オリーブの木と蜜の地である。おまえたちが生き延びて死ぬことのないようにするためである。たとえヒゼキヤが、「【主】はわれわれを救い出してくださる」と言って、おまえたちをそそのかしても、ヒゼキヤに聞き従ってはならない」

【諸国の末路】列王記Ⅱ18:33～35

国々の神々は、それぞれ自分の国をアッシリアの王の手から救い出しただろうか。

ハマテやアルパデの神々は今、どこにいるのか。セファルワイムやヘナやイワの神々はどこにいるのか。彼らはサマリアを私の手から救い出したか。

国々のすべての神々のうち、だれが自分たちの国を私の手から救い出したか。【主】がエルサレムを私の手から救い出せるとでもいうのか。』」

【嘆き】列王記Ⅱ18:36～37

民は黙って、彼に一言も答えなかった。「彼に答えるな」というのが、王の命令だったからである。

ヒルキヤの子である宮廷長官エルヤキム、書記シェブナ、アサフの子である史官ヨアフは、自分たちの衣を引き裂いて*ヒゼキヤのもとに行き、ラブ･シャケのことばを告げた。

＊嘆きと悲しみの激しい表現。

III. 信仰による戦い　列王記第二19章

エルサレム旧市街の城壁

【王の嘆き】列王記Ⅱ19:1～2

ヒゼキヤ王はこれを聞くと衣を引き裂き、粗布を身にまとって【主】の宮に入った。

彼は、宮廷長官エルヤキム、書記シェブナ、年長の祭司たちに粗布を身にまとわせて、アモツの子、預言者イザヤ*のところに遣わした。

＊“主（ヤハウェ）は救われた”

【ヒゼキヤの確信】列王記Ⅱ19:3

彼らはイザヤに言った。「ヒゼキヤはこう言っております。『今日は、苦難と懲らしめと屈辱の日です。子どもが生まれようとしている*のに、それを産み出す力がないからです。」

＊産みの苦しみの時。

■苦難は苦難で終わらない。➡信仰者の確信

【残りの者】列王記Ⅱ19:4

「おそらく、あなたの神、【主】は、ラブ・シャケのすべてのことばを聞かれたことでしょう。彼の主君、アッシリアの王が、生ける神をそしるために彼を遣わしたのです。あなたの神、【主】は、お聞きになったそのことばをとがめられます。あなたは、まだいる残りの者*のために祈りの声をあげてください。』」

＊攻め滅ぼされずに生き残っているユダの人々。

➡残れる信仰者たち、とも言える。

【イザヤの預言】列王記Ⅱ19:5～7

ヒゼキヤ王の家来たちがイザヤのもとに来たとき、

イザヤは彼らに言った。「あなたがたの主君にこう言いなさい。『【主】はこう言われる。あなたが聞いたあのことば、アッシリアの王の若い者たちがわたしをののしった、あのことばを恐れるな。

今、わたしは彼のうちに霊を置く。彼は、あるうわさを聞いて、自分の国に引き揚げる。わたしはその国で彼を剣で倒す。』」

【アッシリア王】列王記Ⅱ19:8～9

ラブ・シャケは退いて、リブナを攻めていたアッシリアの王と落ち合った*。王がラキシュから移動したことを聞いていたからである。

王は、クシュの王ティルハカについて、「今、彼はあなたと戦うために出て来ている」との知らせを聞くと、再び使者たちをヒゼキヤに遣わして言った。

＊アッシリアは、急激に支配地域を拡大し、
この時も多方面で侵略戦争を行っていた。
➡ユダにとっては幸いした。

【アッシリア王の伝言】列王記Ⅱ19:10～11

「ユダの王ヒゼキヤにこう伝えよ。『おまえが信頼するおまえの神にだまされてはいけない。エルサレムはアッシリアの王の手に渡されないと言っているが。

おまえは、アッシリアの王たちがすべての国々にしたこと、それらを絶滅させたことを確かに聞いている。それでも、おまえだけは救い出されるというのか。」

■最盛期にはエジプトまで支配するアッシリア。
世界帝国と呼ばれる史上初の帝国となった。

アッシリアの脅しは
はったりではない

【使者の手紙】列王記Ⅱ19:12～14

「私の先祖は、ゴザン、ハラン、レツェフ、またテラサルにいたエデンの人々を滅ぼしたが、その国々の神々は彼らを救い出したか。

ハマテの王、アルパデの王、セファルワイムの町の王、ヘナやイワの王はどこにいるか』」

ヒゼキヤは、使者の手からその手紙を受け取って読み、【主】の宮に上って行き、それを【主】の前に広げた。

【ヒゼキヤの祈り】列王記Ⅱ19:15

ヒゼキヤは【主】の前で祈った。「ケルビムの上に座しておられるイスラエルの神、【主】よ。ただ、あなただけが、地のすべての王国の神です。あなたが天と地を造られました。

【主】よ。御耳を傾けて聞いてください。
【主】よ。御目を開いてご覧ください。生ける神をそしる*ために言ってよこしたセンナケリブのことばを聞いてください。

【主】よ。アッシリアの王たちが、国々とその国土を廃墟としたのは事実です。」

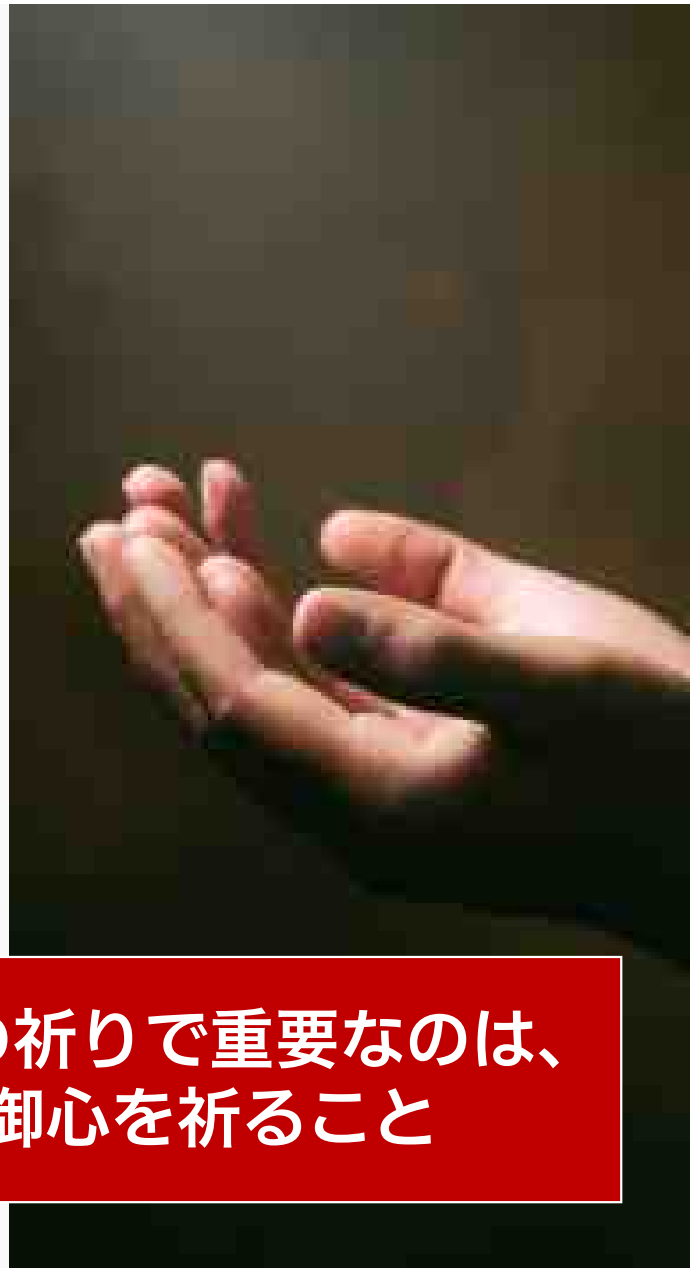
＊アッシリアのセンナケリブ王が犯した罪

【とりなしの本質】列王記Ⅱ19:18

彼らはその神々を火に投げ込みました。それらが神ではなく、人の手のわざ、木や石にすぎなかったので、彼らはこれを滅ぼすことができたのです。

私たちの神、【主】よ。どうか今、私たちを彼の手から救ってください。そうすれば、地のすべての王国は、【主】よ、あなただけが神であることを知る*でしょう。」

＊イスラエル、神の民の存在目的



とりなしの祈りで重要なのは、神の御心を祈ること

【イザヤからの神の言葉】列王記Ⅱ19:20～21

アモツの子イザヤはヒゼキヤのところに人を送って言った。「イスラエルの神、【主】はこう言われる。『あなたがアッシリアの王センナケリブについて、わたしに祈ったことを、わたしは聞いた。』

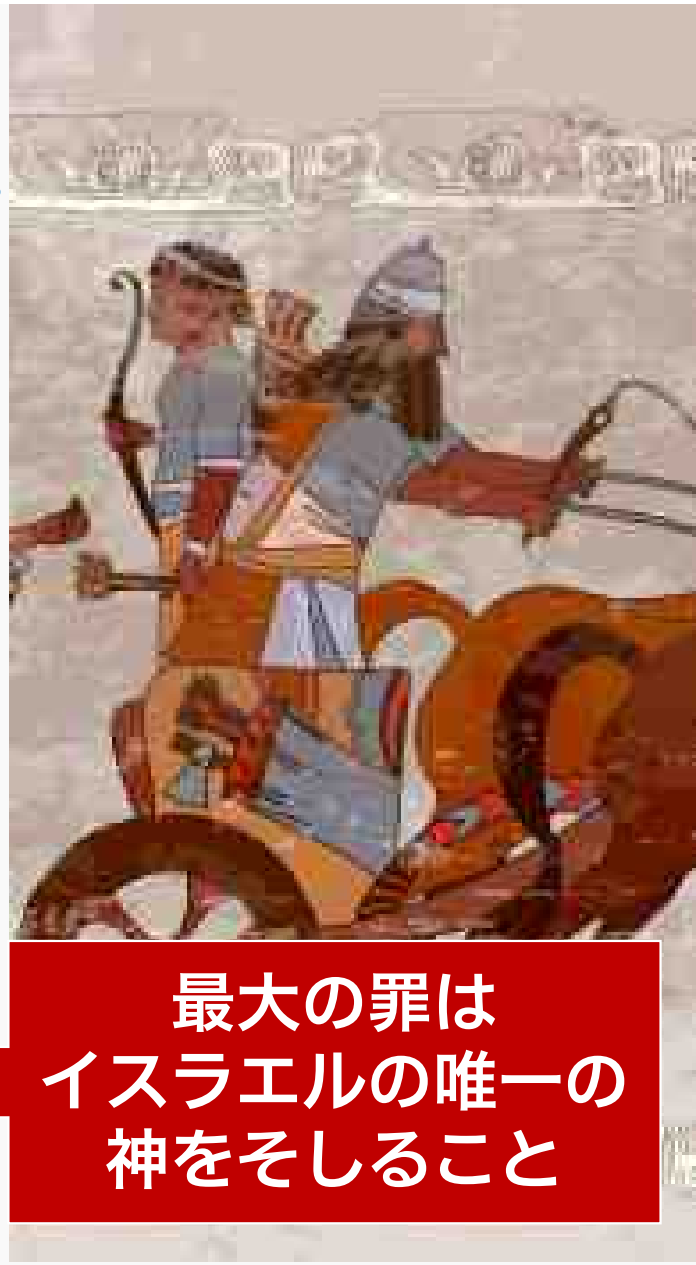
【主】が彼について語られたことばは、このとおりである。『処女である娘シオンはおまえを蔑み、おまえを嘲る。娘エルサレムはおまえのうしろで頭を振る。」

【アッシリア王の罪】列王記Ⅱ19:22～24

おまえはだれをそしり、だれをののしったのか。だれに向かって声をあげ、高慢な目を上げたのか。**イスラエルの聖なる者**に対してだ。

おまえは使者たちを通して、**主**をそしって言った。「多くの戦車を率いて、私は山々の頂に、レバノンの奥深くへ上って行った。そのそびえる杉の木と美しいもみの木を切り倒し、その果ての高地、木の茂った園にまで入って行った。

私は井戸を掘って、他国の水を飲み、足の裏でエジプトのすべての川を干上がらせた」と。



最大の罪は
イスラエルの唯一の
神をそしること

【すべては神の御手に】列王記Ⅱ19:25～26

おまえは聞かなかったのか。遠い昔に、**わたし**がそれをなし、大昔に、**わたし**がそれを計画し、今、それを果たしたことを。それで、おまえは城壁のある町々を荒らして廃墟の石くれの山としたのだ。

その住民は力失せ、打ちのめされて恥を見て、野の草や青菜、育つ前に干からびる屋根の草のようになった。

■アッシリア帝国の背後にも働く神の御手が。

【アッシリアの末路】列王記Ⅱ19:27～28

『おまえが座るのも、出て行くのも、おまえが入るのも、わたしはよく知っている。わたしに向かっていきり立つのも。

おまえがわたしに向かっていきり立ち、おまえの安逸がわたしの耳に届いたので、わたしはおまえの鼻に鉤輪を、口にくつわをはめ、おまえを、もと来た道に引き戻す。』

■残虐に力を誇ったアッシリアは、主をそしり続けたために、彼ら自身がした仕打ちを受け、衰退していくこととなる。

【ヒゼキヤへのしるし】列王記Ⅱ19:29～30

あなたへのしるし*は、このとおりである。
『今年は、落ち穂から生えたものを食べ、二年目は、それから生えたものを食べ、三年目は、種を蒔いて刈り入れ、ぶどう畑を作ってその実を食べる。

ユダの家の中の逃れの者、残された者は下に根を張り、上に実を結ぶ。』

＊神がヒゼキヤの祈りに応えられた、しるし

■荒廃した土地からも食物が与えられ、
3年目には、平和な日々が戻ってくる。

【万軍の主の熱心】列王記Ⅱ19:31～32

エルサレムから残りの者が、シオンの山から、逃れの者が出て来るからである。**万軍の【主】の熱心***がこれを成し遂げる。』

それゆえ、アッシリアの王について、【主】はこう言われる。『彼はこの都に侵入しない。また、ここに矢を放たず、これに盾をもって迫らず、塁を築いてこれを攻めることもない。』

＊“キナー”　…熱意、熱情、ねたみ。

ゼカリヤ書 1:14 私と話していた御使いは私に言った。「叫んで言え。『万軍の【主】はこう言われる。わたしは、エルサレムとシオンを、ねたむほど*激しく愛した。」

【神の約束のゆえに】列王記Ⅱ19:33～34

『彼*は、もと来た道を引き返し、この都には入らない――【主】のことば――。 わたしはこの都を守って、これを救う。わたしのために、わたしのしもべダビデのために*。』」

＊アッシリア王

＊ダビデ契約…主がダビデ王の系譜を守り、
やがて、その子孫にメシアを誕生させる。

■主は、ご自分の民への愛と熱情と、
一方的な約束のゆえ、イスラエルを守られる。

【アッシリアの敗北】列王記Ⅱ19:35～36

その夜、【主】の使いが出て行き、アッシリアの陣営で十八万五千人を打ち殺した。人々が翌朝早く起きて見ると、なんと、彼らはみな死体となっていた。

アッシリアの王センナケリブは陣をたたんで去り、帰ってニネベに住んだ。

【センナケリブの最期】列王記Ⅱ19:37

彼が自分の神ニスロクの神殿で拝んでいたとき*、その息子たち、アデラメレクとサルエツェルは、剣で彼を打ち殺した。彼らはアララテの地へ逃れ、彼の子エサル・ハドンが代わって王となった。

＊偶像には何の力もないと明らかに。

■主をそしった、アッシリア王センナケリブは討たれ、主の御言葉の正しさが証明された。

Ⅲ. まとめと適用　　信仰のたたかいをヒゼキヤに学ぼう

ヒゼキヤの戦いの本質とは？

■アッシリアの侵略を招いたのは、イスラエル、ユダの長年の不信仰。

■神に忠実なヒゼキヤだったが、信仰者にも世にあっては苦難がある。

■ヒゼキヤは、主による解放を信頼し、とりなし、祈った。
❶主をそしるのは、ゆるされないこと。
❷神の栄光が地上に現され、讃えられること。
「地のすべての王国は、主よ、あなただけが神であることを知る」

■主は、ヒゼキヤの祈りに答え、アッシリアを退けられた。
主をそしったセンナケリブは、偶像の宮で討たれた。

主がヒゼキヤの祈りに応え、ユダを守られた理由

- アッシリア王が、傲慢にも主をそしったため。

- 主のイスラエルに対する熱情のゆえ。
  「わたしは、エルサレムとシオンを、ねたむほど*激しく愛した。」

- 主がダビデを通して結ばれた約束(ダビデ契約*)のゆえ
  “主がダビデ王の系譜を守り、その子孫にメシアを誕生させる”

- 主は、ご自分の民への愛と熱情と、
  一方的な約束のゆえ、イスラエルを守られる。

今の時代は、福音こそ、私たちの信仰の戦いの土台

- 神の約束が、すべての土台だと覚えよう

- すべての人は、最後は死んで滅びに至る、罪人だ。しかし、
  「主イエス・キリストは、私の罪のため、十字架にかけられ、
  死んで葬られ、三日目に死を打ち破って復活された。」

- この**福音**を信じた瞬間、罪をゆるされ、永遠の命を約束され、
  新しく生まれ変わっている。聖霊の証印が押され、永遠に神の
  所有とされている。神の家族、キリストの花嫁とされている。

- 神の約束のゆえ、一度与えられた救いは二度と失われることはない。

今の時代の実例に学ぶ、救いと解放の一つの道

- 映画「Pray Away」　…造語“Pay Away” 無駄に費やす。無駄な祈り？
「転向療法」を推進したゲイによる団体『エクソダス』（1979～2013）
　…華々しい活躍の時代から、大スキャンダル、訴えと解散まで

- 主な4人の登場人物。一度は、変わったと感じていた人々。
ゲイ、レズビアン、バイセクシュアル、元トランスジェンダー。
3人は転向療法は間違いと訴える　➡「変わると考えるのが間違い」

- 映画の主張は明確。一人だけ異質。現在進行形の「変わった当事者」
自発的に信仰を証しし、草の根で当事者が集い、礼拝している姿。

- 誰に言われずともある、逃れられない罪悪感。救いの道は一つ。

★　現実に続く戦いのために必要なこと　★

■現実には、肉体にも精神にも、こびりついて残る罪の性質がある。
ただ信じて救われたのだから、ただ主を信頼し続けていくこと。

■罪を犯してしまっても、悔い改めて立ち返るなら、ゆるされる。
日々、主の御言葉を学び、日常に適用させていこう。

■救いは一瞬だけど、変化と成長には時間がかかる。
生きている内に、信仰が完成することはない。

■小さなことでもいい。現在進行形で証しできることが、
日々の中にあるだろうか。大切なのは、主の道を歩み続けること。

「天のお父さま。わたしは、あなたに背き、罪を重ねてきました。
日々犯してしまう罪をも告白します。この罪をゆるしてください。
わたしは、神のみ子イエス・キリストが、
①わたしの罪を贖うために十字架で死に、
②墓に葬られ、
③三日目に復活したこと、を信じます。
ただ、この福音を信じて私は救われ、永遠に神の赦しを得ました。
今だに、この身にこびりつく罪の性質があり、犯す罪があります。
主よ、御前に告白するなら、あなたがゆるしてくださいます。
私の内に住まわれる、ご聖霊の力によって、私を変えてください。
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。　アーメン」